



3/18 (金) 「てだこ学園大学院」卒業式

「てだこ学園大学院」の第22回卒業式が市立中央公民館で行われました。同大学院は、地域の高齢者が交流の輪を広げながら新しい知識を身につけ、老人クラブ活動の指導者を養成するなどの目的のため設置されています。今年卒業する46人は、この2年間で平和学習や琉歌碑めぐり、パソコン教室などで学習と交流を深めました。卒業生を代表して仲田徳栄さんは「卒業後は地域の活動に力を注いでいきたい。楽しい学園生活を送ることができた」と、挨拶しました。また、式の冒頭では、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈り、黙とうがさげられました。



3/17 (木) 「てだこ市民大学」卒業生研究発表会

本市の「夢・まち・人」づくりの一環として、地域のキーパーソンの育成を目的に開学した「てだこ市民大学」の第一期生卒業研究発表会が市役所で行われました。この発表会は、卒業生が今後地域で活躍できるようにその支援体制や受け入れる環境づくりについての意見交換の場として「浦添まちづくり元気ネットワーク」が開催したものです。全4学部の中から代表した8人の学生が、2年間にわたり取り組んできた成果を発表し、それぞれの学部から異なった視点で地域づくりの提案がされ、会場いっぱいの参加者は熱心に聴き入っていました。



4/4 (月) ~ 4/8 (金) 被災地で給水支援

東日本大震災の被災地支援のため、社団法人日本水道協会の要請に基づき、市水道部から給水車と共に職員3人が派遣されました。派遣先である福島県いわき市での活動は、まだ水道が復旧していない地域で住宅が残っている場所を選び、県や那覇市と一緒に給水作業を行いました。現地に残っている方は高齢者が多く、給水をマイクで呼びかけても疲れきって給水車までなかなか来ることができず、職員が個別訪問して容器を預かり、水を届けることもありました。また、作業を行う際は常に放射能測定を行いました。ほとんど反応は無く安全に作業が行われました。



3/24 (木) 新一年生の安全のために

ランドセルカバー、防犯啓発用下敷き、交通安全反射材付体育着入れの贈呈式がありました。これは、子ども達の安心・安全な登下校のためと、市交通安全推進協議会、暴力団壊滅浦添市民対策会議および浦添地区交通安全協会から市内の新一年生全員に寄贈されたものです。贈呈に当たり、市長は「一年生は夢と希望に膨らんで入学し、登下校時にその行動範囲が広がるため、我々大人が地域の安全を確保しなければならない。このカバーと下敷きが交通事故、犯罪から子ども達を守る一助となってくれたら幸いです」と、述べました。



3/22 (火) いろいろ端でぬくもりのあるおはなし会

市立図書館の1階児童室に開設した「かたりの部屋」の供用開始式が行われました。「かたりの部屋」では、かつて民話や昔話を語る場所であった「いろいろ」を再現し、日常から離れたぬくもりのある空間で、子ども達の想像力を育む場所として利用されます。式では、市内の保育園や学童から30人の子ども達が招待され、沖縄の民話や絵本の読み聞かせに真剣な表情で聞き入っていました。図書館では毎月第4土曜日に同部屋を使ったおはなし会を予定しています。(P19参照) また、「授乳室」も新設しましたので、小さいお子様を持つ方はお気軽にご利用ください。



3/17 (木) 「てだこの都市(まち)・浦添」の実現に向けて

市のまちづくりの指針となる「第四次浦添市総合計画」について、浦添市総合計画審議会(会長 井上講四 琉球大学教育学部教授)から市長へ答申書が手渡されました。審議会は、学識経験者、関係団体の役員、市民代表など24人で構成され、市長からの総合計画への意見の求めについて、約1年にわたって8回の会議を開催するなど慎重に審議を進めてきました。手渡された答申は、将来都市像「てだこの都市(まち)・浦添」の実現のための諸施策を取りまとめるとともに、地域力を発揮したまちづくりが積極的に推進されるよう提言されました。



3/15 (火) 暗かったトンネルが明るくなりました!

大平インターチェンジのトンネル歩道で、市内の6中学校と6高等学校の合わせて12校の生徒ら約200人が描いた壁画が完成し、その除幕式が行われました。この壁画事業は、市青少年健全育成市民会議(西銘生弘会長)の主催で、明るい環境作りに取り組むことの素晴らしさを中高生たちに体験してもらうために開催されたものです。式では、市長や西銘会長から各学校へ感謝状が贈呈され、また、その後の作品観覧では、各学校ごとに描かれた自慢の壁画について「太陽のまち」、「平和」、「夢の箱」など作品のコンセプトの紹介がありました。